

## 小規模だが主流となるか Gogoro 市場シェア 6%



Gogoro が 2017 年 7 月の販売登録台数が 4,042 台に達し、台湾の電動バイクの歴史で月間販売記録を達成した。写真／Gogoro 提供

電動バイクのリーダーである台湾の Gogoro は、7 月の販売登録台数が 4,042 台である発表し、台湾の電動バイクの 1 ヶ月間の販売登録台数の過去最高の記録を打ち出し、8 月にはさらに 6,000 台に達し、市場シェア 6%への挑戦と、電気自動車は主流の傾向として主流の車のモデルから拡大している、Gogoro サプライチェーンシステムは徐々に利益モデルに到達することが期待されている。

会社は、その一部は完全に支払われた注文ではないが、9 月の出荷予定分を除いても、1 万 3000 台の予約を受けていた。7、8 の 2 ヶ月間の出荷台数は 1 万台超え、8 月の出荷台数は 7 月のより 50%多く、より高い域に達している。

Gogoro によれば、GoStation でのバッテリー交換は 2017 年 7 月末までに 500 万回を超え、世界で最も安定したエネルギーシステムとなっている。

Gogoro は 5 月下旬に Gogoro 2 シリーズを発売した。政府の補助金を受け 38,800 元での入手価格となっている。さらに携帯電話の遠傳とのセット販売の場合、19,700 元での入手もでき、オリジナルの部品クーポン 5,000 元も楽しめる。ガソリンエンジンバイク市場を電動バイクでひっくり返すという目標

であるが、6月末までに注文が行われ、Gogoroが8月末までに顧客に届けることを約束しているのは、合計13,000台となっている。



Gogoro2を7月に発売。すべての販売拠点を通じ、全体で数千人の人々に同時に納車された。台北國父紀念前廣場で納車された200人のオーナーとGogoro CEO 陸學森（前右側）が写真を撮った。撮影／記者 林俊良

Gogoroのマーケティングディレクター、陳彥揚氏は、5月下旬にGogoro 2が発売されたことから、台湾の電動バイク販売の史上、過去最高の記録を達成したばかりでなく、7月には4,042台の新記録を達成したと語った。Gogoro Stationが稼働する都市（台北、新台北、桃園、新竹、台中、台南、高雄、屏東など）でのシェアは6%に達しているが、台湾全土でのバイク市場のシェアは5%で、光陽（KYMCO キムコ）、山葉（YAMAHA ヤマハモーター台湾）および三陽（SYM サンヤン）のバイク3大ブランドとは大きく離されている。

陳彥揚氏は、Gogoroには180のサプライヤーが何千種類ものコンポーネントを供給している。たった1ヶ月で、これを完全にまとめることができ、月4,000台以上を生産するシステムが全面的に立ち上げられ、製造能力における台湾のリーダーであることが確認された。Gogoroは、台湾の電動バイク関連産業と協力して、台湾の電動バイク市場を離陸させるだろう。

同時に、Gogoro の販売は急速に伸びたが、約 400 ヶ所の GoStation (バッテリー交換ステーション) が台湾の西部の 300km、基隆から屏東に縦貫し、1 日平均 14,000 回、累計 5 億回以上のバッテリー交換回数になっている。Gogoro は、たとえ毎月 1 万人の Gogoro 2 の新規所有者が出てきても、エネルギーやバッテリーの割り当てを確実にするために、ビッグデータを活用し科学的にバッテリーの供給を計画してゆく。